

令和4年11月25日

アーカスプロジェクト 2022 いばらき

アートカレッジ開講のお知らせ



アーカスプロジェクトでは、今年で4年目を迎えるレクチャー・シリーズ「アートカレッジ」を12月に開講します。今年度は、近年改めて注目を集める「アート・コレクティブ」をテーマにします。アーティストが集団で活動する「コレクティブ」の美術史上において注目すべき活動を紹介し、同時代的な意味を探ります。

現代アートは、「現代」という時代を映し出す鏡のようなものです。アートと時代を同時に考えることで、私たちが生きている世界への理解を深めます。戦争やウイルスの蔓延など、混迷の只中にいる私たちにとって、社会の大きな変化や動乱を生き抜いてきた過去のアーティストらの実践や知恵は、これから生き抜くヒントになるでしょう。

ぜひ、事前告知・取材にご協力賜りますようお願いいたします。

2022年度のレクチャー

第1回「いま、なぜコレクティブなのか」

2022年12月17日（土） 11:00-12:30

講師：小澤 慶介（アーカスプロジェクト ディレクター）

内容：2021年の候補者アーティストがすべてコレクティブであったターナー賞（英国）やインドネシアのコレクティブであるルアンルパがディレクターとなった今年のドクメンタ15は、この時代のアートのあり方に何を投げかけているのでしょうか。個が起点となって編み上げられている資本主義、またそこにおける社会的共通資本の可能性も踏まえながら、コレクティブの今日的な意義を探ります。

第2回「コレクティブー抵抗の作法」

2023年1月21日(土) 11:00-12:30

講師：藤本 裕美子（アーカスプロジェクト コーディネーター）

内容：社会が大きく変化するときや政情が不安定な時期、アーティストたちはコレクティブを形成してきました。そこでは、作品はしばしば、社会問題に取り組むための状況を作ることや、新たなヴィジョンを提案する行為として表れます。20世紀中葉以降の、シチュアシオニスト・インターナショナル、フルクサス、アート・アンド・ランゲージ、2000年代の多様化するコレクティブの活動を通して、人の考えや行動を規制する権力に抵抗するヒントを探ります。

第3回「コレクティブー芸術というコモン（仮）」

2023年2月25日(土) 11:00-12:30

講師：藤本 裕美子

内容：思考と想像のためのプラットフォームとしてのコレクティブは、「アーティスト＝個人」を基本として成り立つアートの制度をどのように拡張できるでしょうか。社会主義体制下の旧ユーゴスラビアで1960年代以降に活動を開始したOHOやノイエ・スロヴェニツェ・クンストを出発点とし、労働やコモンというキーワードや制度との関係性をとおして、コレクティブが向き合う今と未来を考えます。

全レクチャーの実施概要

会場：アーカススタジオ+オンライン配信

定員：会場30名+オンライン *要事前予約

受講料：1,500円（各回）

お申込：<https://fb.me/e/1YMhEu57b>

主催：アーカスプロジェクト実行委員会

※新型コロナウイルスの感染状況により、イベントが完全にオンラインへと変更になる可能性がございます。最新情報はアーカススタジオにお問合せください。

お問い合わせ先

アーカススタジオ（火-土 10:00 -18:00）

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com

Web | www.arcus-project.com

報道関係者各位

ARCUS
Artist in Residence - IBARAKI

令和4年11月25日

アーカスプロジェクト 2022 いばらき



HIBINO HOSPITAL Vol. 79

(日比野美術研究室附属病院放送部)



撮影：後藤充



これまでのHIBINO HOSPITALの様子

アーティスト日比野克彦によるワークショップシリーズ 「ヒビノホスピタル」の第79回目をアーカススタジオで開催！

79回目となる「HIBINO HOSPITAL (ヒビノホスピタル 以下、H+H)」を12月17日(土)に開催いたします。H+Hは、1999年から守谷市を拠点に茨城県内各地で開催している、アーティスト日比野克彦によるワークショップシリーズです。ワークショップのテーマや内容が発表されるのは、当日。参加者は想像力を膨らませ、はじめて出会う人たちとのコミュニケーションをとって、テーマに応じてゆきます。H+Hは、アートの知識や技術よりも、まだ見ぬものを楽しむ心があれば、誰でも参加できるのが魅力。日比野がどのようなお題を出すのか、そしてそれに対して参加者たちの共同作業がどのように繰り広げられるのか、どうぞ楽しみに。

ぜひこの機会にご取材賜りたく、貴誌ならびに貴社情報媒体などに掲載紹介をいただけますよう、お願い申し上げます。



概要

日 時：2022 年 12 月 17 日(土) 14:00-16:30（会場受付は 13:40 開始）

会 場：アーカススタジオ

内 容：当日のお楽しみです。動きやすい格好でご参加ください。

参加費：1 人につき 1,000 円（税込）※現地でお支払いください。

定 員：25 名 ※先着順。定員に達し次第受付終了。

予 約：<https://forms.gle/LvT9Xg2zV2RMDS7d6>

※新型コロナウイルスの感染状況により、イベントがオンラインへと変更になる可能性があります。

最新情報についてはアーカススタジオにお問合せください。

アーティスト

日比野克彦 Katsuhiko Hibino

アーティスト。1958 年岐阜市生まれ、東京藝術大学大学院修了。

1980 年代に領域横断的、時代を移す作風で注目される。作品制

作の他、身体を媒体に表現し、自己の可能性を追求し続ける。各

地域の参加者と共同制作を行い社会で芸術が機能する仕組みを

創出する。1999 年よりアーカスプロジェクトにてワークショップ

シリーズ、HIBINO HOSPITAL（日比野美術研究室附属病院放送部）

を定期的に開催。平成 27 年度芸術選奨文部科学大臣賞（芸

術振興部門）。「明後日新聞社文化事業部/明後日朝顔」（2003～）、

「アジア代表」（2006～）、「瀬戸内海底探査船美術館」（2010～）、

「種は船航海プロジェクト」（2012～）などのプロジェクトの他、2014 年より異なる背景を持った人たちの交流をはかる

アートプログラム「TURN」を監修。

現在、東京藝術大学学長、同大学先端芸術表現科教授。岐阜県美術館館長。日本サッカー協会社会貢献委員会委員長。そ

のほか、東京都芸術文化評議会専門委員、公益財団法人日本交通文化協会理事を務める。



撮影：加藤甫

ヒビノホスピタルとは

1996 年よりいろいろな試みで行われてきた、日比野克彦とその研究室（東京藝術大学）によるプロジェクト

『TEST』シリーズ第 7 弾として、1999 年よりスタート。「HIBINO HOSPITAL(日比野美術研究室附属病院放送部)」

というプログラム名は、もともとインターネット上にホームページを開設し、「アートによる診療」を施しながら

ら、参加者を対象にオフラインパーティーでワークショップを行い、アーティストとともに作品を制作・展示す

るという内容に由来します。現在はオフラインパーティーのみの活動となり、システムを一部変更しながら日比

野克彦発案による誰でも参加できる多彩なワークショップを継続的に実施しています。H+H Vol.34「明後日朝顔

新聞社説明会（新聞社立ち上げ企画会議）」では、のちに「明後日新聞社文化事業部/明後日朝顔」（2003～）につ

ながるなど、これまでの日比野氏の H+H での様々な原初的なワークショップ要素は、多層的に多様なアートプロ

ジェクトへと全国展開しています。

主催：アーカスプロジェクト実行委員会

ご取材のお申し込みは下記へお願いいたします。

お問い合わせ先：アーカススタジオ（火-土 10:00 -18:00）

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com